

首相ブラジル訪問(平成 26 年 8 月 1 日～2 日)で、歓迎会



# 首相 農業支援の方針

## ブラジル在住県人期待

安倍晋三首相は1日、歴訪先のブラジルで同国の農業を支援する方針を打ち出した。安倍晋三首相は1日、歴訪先のブラジルで同国の農業を支援する方針を打ち出した。

本県出身者は、日本への輸出促進、両国の関係強化に期待を込めた。ブラジル県人会の千田曠曉会長(73)は金ヶ崎町出身、サンパウロ市在住は「日本の高

度な技術でインフラ整備が進めば輸出増加につながる。ブラジルは鉄道網が少なくトラックでの輸送が主流だが、雨が降ればぬかるみにはまり、輸送が滞る」と道路整備の必要性を訴える。

サンパウロ近郊の全天候型施設でバラを栽培し、観賞花類の苗を育てる及川公雄さん(76)は「関市大東町出身も」あらゆる面での関係強化を歓迎する」と期待する。

アマゾン川河口のベレン市に住むベレン県人会長の山中正三さん(75)は岩手町出身は「観葉植物や花卉などの生産販売、造園事業などを手掛ける。山中さんは「ブラジルは資源や食料の生産量が無

限で、発展性を秘めた国。あらゆるインフラ整備が必要」と強調する。

約千畝の農地で大豆、トウモロコシを栽培する菅原正芳さん(74)は関市川崎町出身は「ブラジル中部東岸サルバドルから西に約900キロのバハイラス市在住で「輸出には港湾までの距離が遠くてコスト面で厳しい。インフラ整備など諸条件が整えば、自分たちが生産する穀物が日本に輸出可能な時代が訪れる」と夢を語った。

岩手日報より